

みやぎ食と農の県民条例基本計画の推進に向けた 令和元年度事業の実施状況及び令和2年度の主な取組(概要版)

農林水産委員会配布資料
令和2年8月21日
農政部

資料1

I 消費者が求める安全・安心な食料の安定供給

令和元年度の主な施策の実施状況		主な推進指標の達成状況等	令和2年度の主な取組
<p>①② 消費者と農業者の安全確保の相互推進の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 農業生産工程管理（GAP）の実践普及拡大に向け、生産者及びJA等を対象とした研修会を開催した。また、家畜伝染病への防疫体制の整備・強化及び飼養衛生管理基準の周知を図った。 ● 「食育」の普及啓発に向け、高校生地産地消お弁当コンテストの開催や、地域に伝わる伝統的な食文化や特産物を伝える人を「食材王国みやぎ『伝え人』」として登録し、活用するなど、「食育」に関する取組を支援した。 ● 教職員を対象にセミナーを開催し、農業体験学習等の取組を支援した。 	<p>◎農業法人等のGAPへの取組が増加</p> <p>GAP導入団体数</p> <p>◎農業体験等の学習に取り組む小中学校の割合が増加</p> <p>目標値（R2）：100% 平成29年度 82.4% → 令和元年度 90.3% (隔年調査)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● GAPの取組拡大に向け研修会の開催や、農業教育機関のGAP認証取得に係る支援を行う。また、農場HACCP指導員の資格取得やスキルアップに向けた支援に取り組む。【GAP認証取得推進事業】 ● 家畜伝染性疾病について、発生状況把握・発生予察等のための衛生検査や、伝染病発生時のまん延防止準備を行う。また、家畜疾病の検査・調査や、農場における衛生対策の巡回指導による伝染病予防知識・技術の普及を行う。【家畜伝染病予防事業・家畜衛生対策事業】 ● 県産食材の認知度向上と消費拡大、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた生産者を支援するため、県内飲食店等における県産食材の需要喚起のためのキャンペーンの実施に取り組む。また、食材王国みやぎ「伝え人」登録・活用の促進や、高校生地産地消お弁当コンテストの開催等を行う。【食育・地産地消推進事業】
	<p>高校生地産地消お弁当コンテスト 農業体験学習を行う教職員向けセミナー</p>		

II マーケットインによる競争力と個性のある農業の持続的な発展

令和元年度の主な施策の実施状況		主な推進指標の達成状況等	令和2年度の主な取組
<p>③④ 競争力ある担い手の確保・育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● アグリビジネスに取り組む経営体の経営改善に対し支援を行い、震災の影響の克服や、新たなビジネスを実現するための活動を支援した。 ● 農業関係機関等の連携により設置した宮城県農業経営相談所は、各農業改良普及センターと連携し、農業経営の確立・発展、農業経営の法人化や経営資源の確実な次世代への継承等農業経営の課題を解決するため、専門家の派遣・巡回等による個別経営改善の支援を行った。 ● 新規就農者の確保・育成については、農業大学校における研修教育に加え、幅広く優秀な人材を集めるため、県内外での就農相談会やWeb、電話・電子メール等により、各個人のニーズに適應した就農相談を実施した。 	<p>◎アグリビジネス経営体数は既に目標を達成している。</p> <p>アグリビジネス経営体数</p> <p>◎年間新規就農者数は毎年度目標数を越えている。</p> <p>年間新規就農者数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 6次産業化等に関する戦略の策定、人材育成研修会の開催、商談会等の開催を行う。また、地場産農林水産物等の利用拡大及び6次産業化の取組に必要な加工・販売施設等の整備について、支援を行う。【アグリビジネス経営確立支援事業】 ● 経営意欲ある農業者が創意工夫を生かした農業経営を展開できるよう、経営相談体制の整備や、農業経営の法人化を推進する取組を支援する。【農業経営者総合サポート事業】 ● 農業法人の早期の安定化・発展を図るため、法人が抱える経営課題や問題点の解決に向け、民間専門家を活用した伴走型支援による具体的な助言・指導を行い、「儲かる農業経営体」を育成する。【農業法人経営安定化ハンズオン支援モデル事業】 ● 次代の担い手である優れた青年農業者等の育成及び確保を図るため、研修等の相談から就農までの一貫した支援体制や、円滑に就農できる環境を整備する。【青年農業者育成確保推進事業】
	<p>みやぎ6次産業化フェア (JR仙台駅で開催) 地域の次代を担う新規就農者 (大崎市)</p>		

令和元年度の主な施策の実施状況 主な推進指標の達成状況等 令和2年度の主な取組

- 施策
- 低コスト化を図るため、農地の大区画化や、麦・大豆・飼料作物の生産等のための水田の汎用化、及び担い手への利用集積について、農地整備事業（ハード事業）と農業経営高度化支援事業（ソフト事業）を連携させながら重点的に推進した。
 - 農地中間管理機構（みやぎ農業振興公社）と各市町村、農業委員会等の連携促進を図りながら、農地中間管理事業の取組に対する支援を行った。令和元年度は、農地中間管理事業により約1,289haの農地が担い手等へ集積された。
 - 水田をフルに活用し、転作作物である飼料用米、加工用米及び輸出用米等の作付を推進するため令和元年度の「宮城県水田農業推進方針」及び「宮城県水田フル活用ビジョン」を策定し、作物別生産目標の達成に向け、各地域農業再生協議会との連携を強化し、一丸となって推進した。
 - 次世代施設園芸拠点の整備を進め、民間コンサルを活用した高度環境制御技術の導入促進、技術力のある人材育成、生産者ネットワークによる情報共有等による、栽培・労務管理技術成果の横展開で、先進的な技術を導入した園芸経営に取り組む農業法人が増加した。
 - 令和元年度に本格デビューした県育成いちご新品種「にこにこベリー」の生産拡大と認知度向上を図るため、展示ほを中心とした栽培技術研修会の開催のほか、仙台市内でデビューイベント、県内外で各種イベントやスイーツフェアを実施した。

⑤⑥ 優良な水田を生産基盤により確保し、多様な作物を生産の振興を図る。⑦ 園芸の競争力の強化



大区画ほ場整備（蕪栗沼地区）



農地集積に関する話し合い

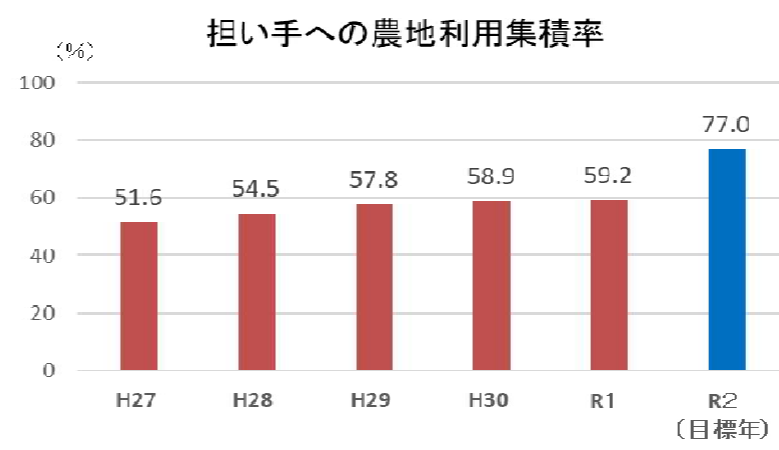
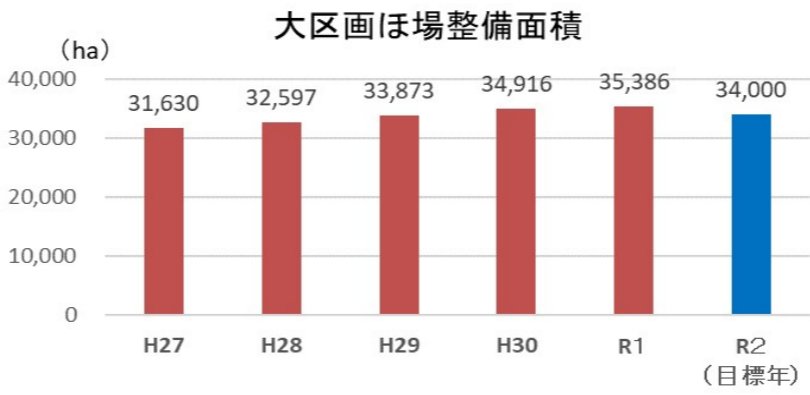


いちごの次世代園芸モデル現地視察（石巻市）

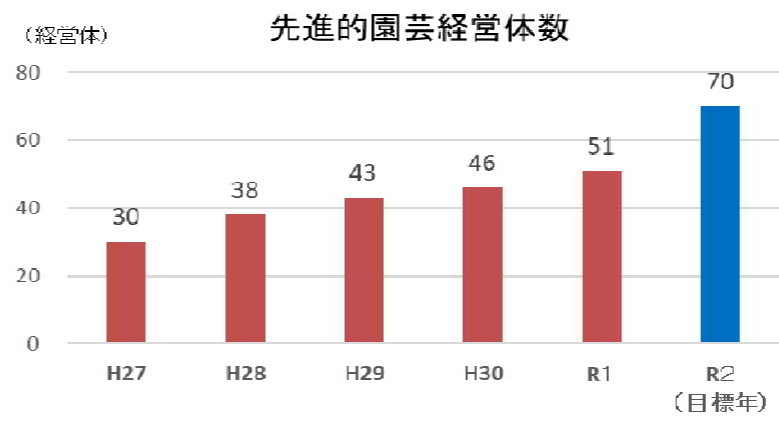


宮城県産いちご新品種「にこにこベリー」デビューパーティー

◎大区画ほ場（50a以上）整備面積は増加し、目標達成した。中間管理事業の取組により集積率も増加している。



◎先進的園芸経営体は増加している。



- 農地の利用集積による経営基盤の強化を図るため、農地の大区画化・水田の汎用化に向けた基盤整備を推進する。【農地整備事業】
- 農地中間管理事業により担い手への農地集積・集約を促進する。【農地中間管理事業】
- 米政策改革の着実な推進に向け設定した主食用米の「生産の目安」に基づき、各地域において需要に応じた生産を支援する。【経営所得安定対策等推進事業】
- 消費者ニーズに応える新たな麦・大豆品種の導入や生産・流通体制の改善のため、麦・大豆生産振興研修会の開催や、栽培指導体制の整備等を支援する。【売れるみやぎの麦・大豆生産拡大事業】
- みやぎ園芸特産振興戦略プランに掲げる目標の実現に向け、「先進的技術を導入した施設園芸」と「収益性の高い土地利用型露地園芸」を推進する。【園芸振興戦略総合対策事業】
- 先進的技術導入による生産性向上や企業的経営の取組に必要な施設等の整備支援と、民間コンサルを活用した高度環境制御技術の導入促進、技術力のある人材育成といったハード・ソフト両面から先進的園芸経営体の育成を支援する。【みやぎの園芸法人ステージアップ事業】
- 生産者・農業団体・行政・実需者等が広域に連携して生産流通強化のための計画を策定し、体制整備を一体的に行うことで、地域の枠を超えた産地間連携と新たな取組による産地づくりを支援する。【競争力ある園芸産地づくり生産流通強化事業】
- 県育成いちご新品種「にこにこベリー」のさらなる生産拡大や認知度向上に向け、県内各地域への展示ほ設置による生産体制の強化やスイーツフェア等のプロモーション活動等を行う。【県育成いちご新品種「にこにこベリー」展開事業】

令和元年度の主な施策の実施状況 主な推進指標の達成状況等 令和2年度の主な取組

⑧ 畜産「食材王国みやぎ」による畜産物の販売戦略の展開と食産業の振興

⑩ 生産力と品質を高める農業技術の高度化

- 肉用牛の生産基盤強化対策として、優良雌子牛の導入・保留の推進や受精卵移植技術を活用した牛群整備をはじめ、県有基幹種雄牛「茂福久」号等を活用した質・量ともに優れた生産性の高い肉用牛づくりを推進し、「仙台牛」のブランド力向上に努めた。
- 県産食品の海外販路拡大のため、海外バイヤー招へいや海外商談会の開催協力、物産展の開催により輸出の促進に努めた。また、国内向け販路の目標、拡大のため、専門家派遣や経費支援、による「商品開発」「商談・販売」などの課題解決に向け、総合的に支援した。
- 「みやぎ米ブランド化戦略」に位置付けられた新品種「だて正夢」のプロモーション及び生産対策を実施し、「米どころ宮城の復権」に向けた、宮城米の評価向上に取り組んだ。また、食味レベルアップ重点技術対策の継続的な取組により、食味ランキングにおいて「ひとめぼれ」及び「つや姫」が「特A」評価を獲得した。
- 水稻新品種「金のいぶき」の栽培法や新タマネギの端境期である秋冬に収穫できる「セット栽培による生産技術」、地域に適応した飼料作物の指定等に取り組み、各分野において12の普及技術を開発した。
- 「スマート農業開発・実証プロジェクト」により、関係団体等が一体となって大規模土地利用型法人の「生産コスト削減」「単収向上」「労働時間削減」に向け、水田センサーの活用等、スマート農業技術の現地実証に取り組んだほか、スマート農業技術の研修会、セミナー等を開催した。



霜降り度合いを示す値が日本一の「茂福久」号



台湾の高級スーパー「裕毛屋」フェア（台中市2店舗）

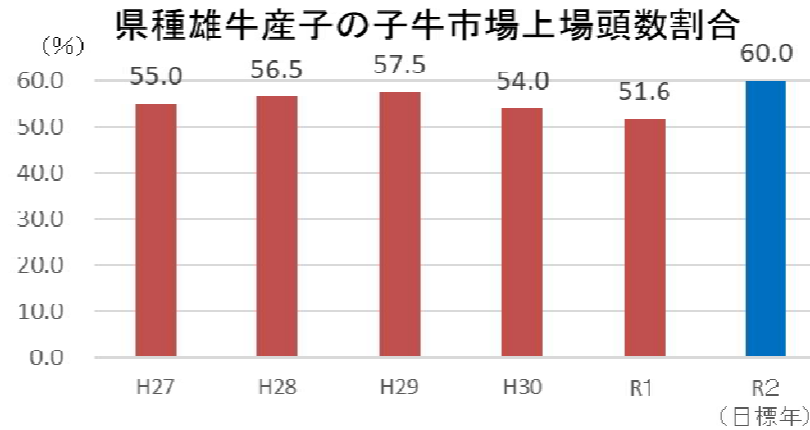


仙台牛の日記者発表会

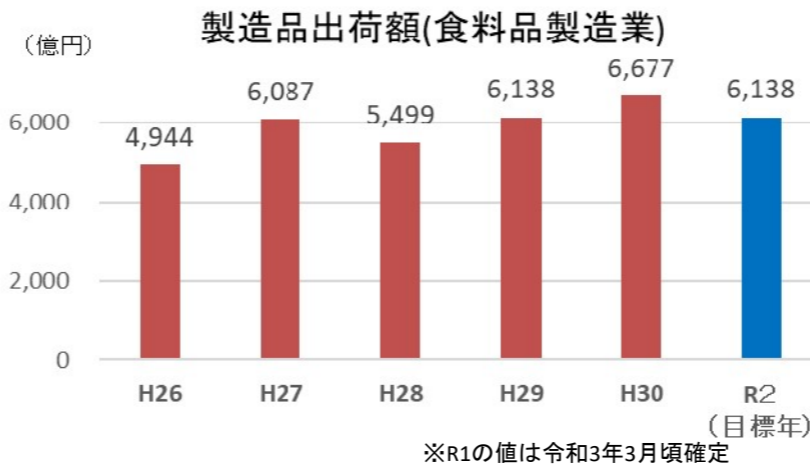


スマート農業実演会

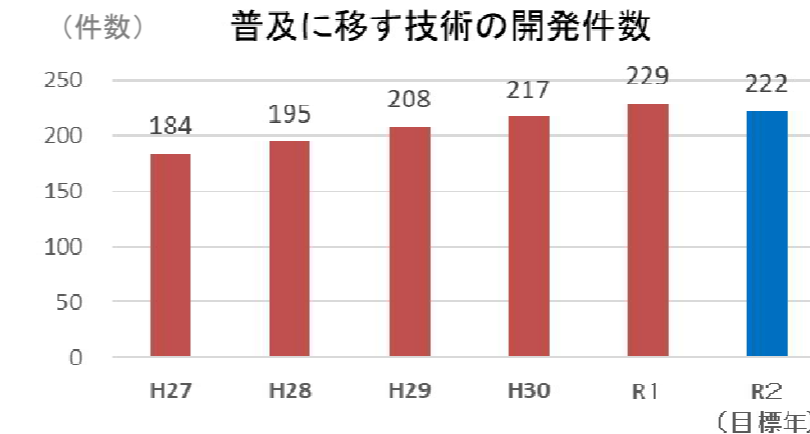
◎県種雄牛産子の県内子牛市場上場頭数割合は堅調に推移



◎製造品出荷額（食料品製造業）は目標を達成



◎普及に移す技術開発件数は順当に増加し、目標を達成



- 県有基幹種雄牛「茂洋美」・「洋系波」・「茂福久」号を活用した質・量ともに優れた生産性の高い肉用牛づくりを推進し、「仙台牛」のブランド確立を推進する。
【みやぎの優良肉用牛生産振興対策事業、みやぎの肉用牛イメージアップ事業】
- 好成績を収めた宮城全共につき、次回全共においても継続して上位入賞を果たすため、出品条件に合う優れた出品候補牛の確保等を推進する。
【第12回鹿児島全共出品対策事業】
- 仙台牛生産の基礎となる子牛生産基盤の強化と生産性向上を図るため、優良雌子牛の県内保留を支援し、肉用牛の復興と経営の規模拡大を推進する。
【みやぎの子牛生産基盤復興支援事業】
- 県産食材のブランド化に取り組む生産者等への支援として、生産者団体等に対して、ブランド化に向けた補助の実施や、3E食品普及・認証等の運営、県産食材を使用したフェア開催への支援を行う。
【県産ブランド品確立支援事業】
- みやぎ米の新品種「だて正夢」と「金のいぶき」の認知度向上と需要拡大を図るため、ファン拡大に向けたプロモーションを展開する。
【宮城米新品種ブランド力強化事業】
- 「宮城県農林水産物等輸出促進戦略」に基づき、海外バイヤーとこれまで関係構築したネットワークを生かしつつ、オンライン商談会やデジタルマーケティングの活用等により、高品質な県産食品の輸出を促進する。
【輸出基幹品目販路開拓事業、県産食品海外ビジネスマッチングサポート事業】
- 「食材王国みやぎ」の魅力をより広く発信するため、情報誌を活用した情報発信や、飲食店フェアの開催、県外物産展を活用した消費体験の促進等を支援する。
【「食材王国みやぎ」魅力発信プロジェクト事業】
- 試験研究機関や民間企業に蓄積されている先端技術の研究成果を現地普及させるため、現地実証や研修会等を開催する。
【食料生産地域再生のための先端技術展開事業】
- ICT等を活用した「スマート農業」の先端技術による超省力・高品質生産の展示・実証を行い、経営の効率化・高度化を推進する。
【スマート農業実証モデル推進事業】

Ⅲ 農業・農村の多面的な機能の発揮

令和元年度の主な施策の実施状況		主な推進指標の達成状況等	令和2年度の主な取組
<p>施策 ⑪⑫⑬ 農業環境・農村にやさしいのが多い農業の機能の推進の資源の保全・発揮と管理と活用の上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 県民共有の財産である農地・農業用施設などの生産資源及び農村が有する自然環境・景観などの環境資源を良好に維持・保全していくため農業者や地域住民が一体となった地域ぐるみの共同活動を支援した。 ● 震災復興に取り組む被災地と将来サポーターとなりうる県内外の学生との絆づくりを支援するため、宮城県でしか体験できない「農林漁業体験+復興の手伝い」等の体験メニューの実施や情報発信PR活動を行う地域グリーン・ツーリズム実践団体を支援した。 ● 県内の農業水利施設を活用した小水力発電施設の普及推進に向け、施設管理者を対象としたセミナーを開催した。また、内川松沢地区において、施設整備のための基本設計を行った。 ● みやぎの環境にやさしい農業の推進に向け生産者交流会を開催し、生産者同士の情報共有を図った。また、消費者交流会、PR販売会を行い環境保全型農業に対する理解促進と定着促進を図った。 	<p>◎保全活動を行った面積は年々増加傾向だったものの、初めて減少となった。</p> <p>農村の地域資源の保全活動を行った面積</p> <p>◎農村環境保全等の協働活動に参加した人数は、年々増加している。</p> <p>地域や学校教育と連携した農村環境保全等の協働活動に参加した人数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るため、地域の農業者等の共同による農地等の維持・保全活動を支援する。 【多面的機能支払事業】 ● 持続可能な農山漁村地域づくりを推進すべく、集落における人材育成・体制整備や応援人材のマッチング、農山漁村交流拡大プラットフォームによる事業者マッチング等の支援を行う。 【令和のむらづくり推進事業】 ● 農業生産活動の基盤である農業水利施設等の機能を安定的に発揮させるため、効果的な予防保全対策や長寿命化対策等のストックマネジメントを推進する。 【水利施設整備事業、土地改良施設機能診断事業】 ● 農業用施設の維持管理費軽減を目的とした発電施設の設置に向け、内川松沢地区の実設計を進める。 【小水力等農村地域資源利活用促進事業】 ● 環境保全型農業に取り組む生産者や消費者との交流を行い、環境保全型農業に対する理解促進と定着促進を図る。 【環境にやさしい農業定着促進事業】
	<p>農地維持活動の様子（美里町）</p> <p>小水力発電所の事例</p>		

Ⅳ 農村の活性化に向けた総合的な振興

令和元年度の主な施策の実施状況		主な推進指標の達成状況等	令和2年度の主な取組
<p>施策 ⑭⑮ 農村生活の活性化・暮らしを地域を守る生活環境の整備と</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 農産物直売所における商品力や販売力向上のため、販売戦略提案支援や専門アドバイザーの派遣を行うとともに、県産のワインや農林水産物のファンづくりのため、生産地を巡るツアーや飲食店フェアを開催し、都市と農村交流の推進による農村活性化の促進を図った。 ● 国の鳥獣害防止総合対策交付金等を活用し、市町村等が実施する侵入防止柵の設置や有害鳥獣捕獲活動等の取組のほか、集落ぐるみの鳥獣被害対策等により地域における被害対策を支援した。 ● 農業用施設の老朽化による災害被害を防止するため、ため池や用排水施設等の整備を行った。 	<p>◎農産物直売所の推定売上額は、初めて減少したものの、既に目標を達成</p> <p>農産物直売所推定売上額</p> <p>改修工事が完了したため池（角田市）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 中山間地域の資源を活用した収益力のある農業を展開するため、リーダーの育成、地域の創意工夫にあふれる取組を支援する。 【中山間地農業ルネッサンス推進事業】 ● 中山間地域の農業生産活動を維持するため、耕作放棄地の発生防止活動や水路・農道などの管理活動を支援する。 【中山間地域等直接支払交付金事業】 ● 拡大傾向にある野生鳥獣による農作物への被害を軽減するため、被害防止に向けた普及啓発や人材育成を図るとともに被害防止活動を支援する。 【鳥獣害防止対策事業】 ● 防災、減災、国土強靱化のための緊急対策として、早急に対策が必要な防災重点ため池の安全性確保の取組を推進する。 【ため池等整備事業】
	<p>県内ワイナリーと生産地を巡るバスツアー（大和町）</p> <p>鳥獣被害防止のための点検マップ作り</p>		